



東地中海地域ニュース

レバノン：国軍とファタハ・イスラームの交戦 (5月27日付現地紙報道)

1. 戦闘の状況

- (1) レバノン国軍が嚴重な包囲を継続する一方、ファタハ・イスラームは投降する様相は見せていない。小規模な銃撃戦が断続的に起きているが、概ね事実上の停戦が継続。26日夜に突発的な激しい銃撃戦が行われたが、まもなく終息した。
- (2) 25日以降、レバノン国軍向け軍事支援物資を搭載した米国、クウェイト、ヨルダン、エジプトの輸送機がベイルート国際空港に到着した。
- (3) 26日、在レバノン・サウジ大使は、死亡したファタハ・イスラームのメンバーの中に少なくとも4名のサウジ国籍者がいたと述べた。

2. ナスラッター・ヒズボラ書記長の演説と反響

- (1) 25日夜、ヒズボラのナスラッター書記長が行ったテレビ演説の中で、「レバノン国軍(を相手とすること)は越えてはならない一線であり、それと同時に、パレスチナ難民キャンプ(を相手とすること)も越えてはならない一線である。問題は政治的、司法的に解決されるべきである。レバノンを米国とアル・カーイダの代理戦争の場としてはならない。今日、救国内閣の組閣こそが勇氣ある決断である」と述べた。
- (2) これに対し26日、セニオラ首相はBBCのインタビューに答えて、「ナスラッター書記長が演説の中で、国軍と国家の尊重を支持し、ファタハ・イスラームのレバノン政府への投降を支持すると表明することを期待していた(が、そうはならなかった)。他方、救国内閣の組閣に言及したことは良い兆候である。」と述べた。
- (3) 26日、ラアド国会議員を代表とするヒズボラ代表団がスレイマン国軍司令官と会談し、戦死者への哀悼を表明すると共に、国軍がレバノンの安定と国家統合を守り続けることを希望していることを伝えた。これに対してスレイマン国軍司令官は、「ナスラッター書記長が(演説で述べたのとは)違った立場を表明すると思っていた。国軍は、ファタハ・イスラームが活動を続けることを容認しない。国軍は、国内政治的には中立の立場を維持するが、今回は国軍とテログループの間の問題である」と述べた。

3. 5月25日、「大シリアのアル・カーイダ」と称するグループがインターネット・サイトで以下のビデオ・メッセージを発表した。

- (1) スフェイル・マロン派大司教がレバノン国軍司令官に対し、ナフル・エル・バーリド・パレスチナ難民キャンプ及びその他難民キャンプから国軍を撤退させるよう命令することを求める。
- (2) (国軍が撤退しない場合には) アル・カーイダは、観光施設や他の経済施設を標的にするであろう。